

雨の雫に濡れた紫陽花の鮮やかさに、心が洗われるようですね。でもこれから本格的な梅雨に入ると、しとしとムシムシの日も多くなり不快指数も上昇み・・・。

外で、思い切り身体を動かして遊びたい元気印の子供たちが、窓に張り付いて、雨空を見上げている様子が目に浮かぶようです。

先日、「外に出られない欲求不満と、反抗期が重なって、2人きりでいると煮詰まってしまうそう！」と嘆くお母さんがいらっしゃいました。



反抗期・・・子育ての中で、通過しなければならない嵐のようなものかもしれませんね。私も、かなり昔、子供が2～3歳の頃、ひっくり返って泣き喚く子供を、ずいぶん酷く叱りつけてしまったなあと、反省しきりです。

児童精神科医の佐々木正美氏によると、反抗というのは、「こんなワルでも、ボクのこと好き？」という「子供の確かめ行動」なのだそうです。そんな、親の愛を確認することは、自分の存在を確認することでもあり、それを通して、親から愛されている自分自身の自己肯定感や、自尊心を育てていくのだといいます。

う～む・・・子供の成長に、反抗期は必要なものだったんですね。

でも、その相手をするのは本当にタイヘン！！。子供の反抗期を、親はどう乗り越えればいいのでしょうか。

だだをこねてみせるのは、子供が誰の前で一番安心しているか、の表れだそうです。子供は安心できる人の前でなければ地を出しません。親を信じている、安心しているから反抗するのだと考えてみましょう。そんな気持ちがあると、「ああ、やってる、やってる・・・」と、少し距離をおいて子供に接することが出来るかもしれません。



そのうち、じきに雨が止んで、太陽が顔を出しますよ！